

第3回高等研究院レクチャーを開催

第3回高等研究院レクチャーが、3月19日(金)、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて、開催されました。

今回は、「宇宙への挑戦。」をテーマに行われ、近藤高等研究院長のあいさつの後、まず、グローバルCOE「宇宙基礎原理の探求」の拠点リーダーである杉山 直理学研究



会場の様子

科教授が「宇宙を理解する：素粒子から太陽・地球、そして宇宙まで」と題し、素粒子、太陽系、宇宙の密接な関係、またダークマターやダークエネルギーを例にとり、それらが宇宙の発展において果たしている役割について講演しました。次に、飯嶋 徹同研究科教授が、「消えた反粒子の謎に迫る：Bファクトリー実験における三つの発見」と題し、電子と陽電子を高頻度で衝突させ、自然界には存在しないB中間子と半B中間子を大量に生成させるBファクトリー実験の最新研究成果を紹介し、また、関 華奈子太陽地球環境研究所准教授が、「オーロラと宇宙の嵐：太陽がひきおこす宇宙環境のダイナミックな変動」と題し、オーロラ現象のメカニズムの解明と宇宙嵐の影響と予測について講演しました。さらに、金田英宏理学研究科准教授が、「宇宙の謎を解き明かす：赤外線衛星「あかり」の発見」と題し、赤外線天文衛星「あかり」に装備されている、同准教授が中心に開発した極低温望遠鏡と赤外線観測装置による最新の観測結果について紹介しました。

講演後には活発な質疑応答が行われ、本学教職員、学生や一般の方々など約180名が参加し、盛況のうちに終了しました。